



【申請者（会社）概要】

名 称			
代表者役職	(ふりがな )		
氏 名	生年月日 年 月 日		
所 在 地	〒		
電 話 番 号		F A X 番 号	
担当者氏名			
創業／設立	年 月	資 本 金	千円
従 業 員 数	正社員： 名	パート等： 名	
業 種			
<p>&lt;会社沿革&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創業・設立経緯及び現在までの経緯（事業転換、新事業進出等）</li> <li>・昭和〇〇年〇月 創業</li> <li>・昭和〇〇年頃～ 受注の多角化（部品のユニット化）</li> <li>・昭和〇〇年頃～ 〇〇製品のOEM生産開始（一貫生産体制）</li> <li>・平成〇〇年 〇〇分野へ事業進出（新商品〇〇モデル生産開始）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の内容（自社の強み、技術基盤等）</li> <li>・自社で製品の開発設計ができ、量産化できる</li> <li>・一貫生産体制が可能（部品調達～製品組立～出荷検査）</li> </ul>			

【直近3期間の財務データ】

	年 月 期	年 月 期	年 月 期
売 上 高(千円)			
税引後利益(千円)			
純 資 産(千円)			

【評価対象事業：】

事業化計画の概要（開発の背景と目的等）

- ・新商品〇〇モデルは、〇〇をする目的で、〇〇に使用される製品である。
- ・日本の社会構造が、（少子高齢化など）するなかで、〇〇する商品が求められており、従来使用されてきた〇〇に変わりつつある。
- ・なかでも〇〇分野においては、・・・の状況にあり、（外国製品など）も流入しつつあり、競争力のある（国産品などの）開発が急務であった。
- ・当社では、大手メーカー〇〇体制のなかで、新商品〇〇モデルの自社開発を手がけ、〇年間の期間をかけて試作品ができた。
- ・開発のポイント①従来の類似製品との差別化②コストダウン③消費者に受け入れられるデザイン性として、若手スタッフを中心に取り組んだ。

事業化をめざす元となるシーズ（技術・製品等の内容）

- ・使用目的（用途）、使用対象者等
- ・機能、効用等
- ・製品仕様と特色（小型・軽量など）

技術の先端性（従来技術・製品等との比較優位性、工業所有権等の内容）

- ①従来の類似製品との差別化
  - ・小型・軽量化し高齢者に利用しやすいものにした
  - ・〇〇センサー付きで省エネ構造により省エネ構造として・・・した使用目的
- ②コストダウン
  - ・企画、設計段階から製品の低コストを実現
- ③工業所有権を申請中

## ノウハウの独自性・発展性

### 製造・販売方法・サービス提供方法

- ・ 製造  
自社の新工場で一貫生産  
〇〇生産部門 〇〇課 〇〇担当
- ・ 販売方法  
〇〇チェーン加盟店ルート  
商社（卸売）ルート
- ・ サービス提供  
〇〇チェーン加盟店  
自社お客様相談室

### 生産・販売等計画

- ・ 平成〇〇年 試作品完成
- ・ 平成〇〇年 テスト販売 … ルート（東海地区〇〇店）
- ・ 平成〇〇年 量産体制構築 月産〇〇台

### 利益見込み等

- ・ 売上高
- ・ 製造原価 原価率〇〇%以内
- ・ 販売管理経費・開発経費
- ・ 利益見込み 売上高対最終利益率（目標）〇〇%

### 資金調達方法

- ・ 自己資金・増資等
- ・ 長期借入金（金融機関）

## 製品の市場性

### 対象市場の規模

- ・ ○○器具の市場規模
- ・ 業界の現況

### 対象市場の特色

- ・ 高齢化人口など
- ・ 家計消費動向など
- ・ 新規参入業者の状況

### 情報技術（IT）戦略・その他

- ・ 新規生産管理システム導入
- ・ 新規顧客管理システムの導入
- ・ クラウドファンディングの活用
- ・

### 添付書類

- 会社案内
- 製品（商品カタログ）
- 直近の決算書3期分及び直近の試算表  
（決算期が3期に満たない場合は、決算期到来分及び直近の試算表）
- その他、貴社の活動内容又は事業内容が分かる資料